

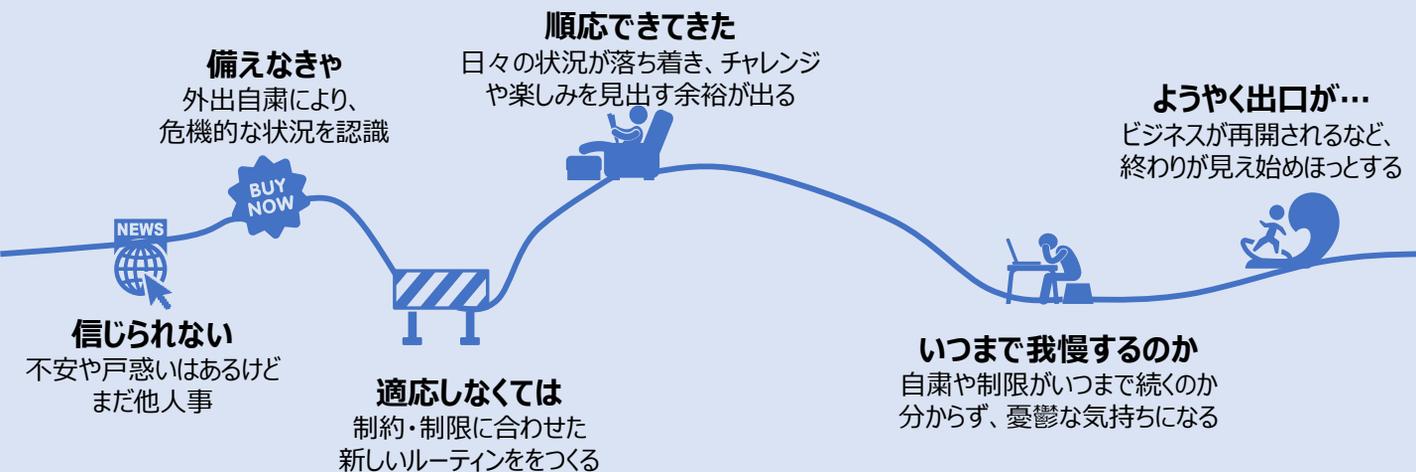
COVID-19状況下での生活者のエモーショナル ジャーニー



Ipsos Chinaでは、感染拡大から2か月間、人々の感情がどのように変化していったのかを、オンラインコミュニティでモニターしてきました。そこで見てきた**コロナ状況下でのエモーショナル ジャーニー**についてご紹介します。

1月下旬に、「人から人への感染」が報じられた時の『信じられない』という気持ちに始まり、武漢封鎖による『備え』を経て、全部で6つのステージが観察されました。

COVID-19 エモーショナル ジャーニー 中国 1月下旬～3月中旬



さて、いま日本人はどのエモーショナル ステージにあるのでしょうか？

Ipsos UUは4月4・5日の週末にかけて、[シンジケートコミュニティ](#)のメンバー達に問いかけてみました。

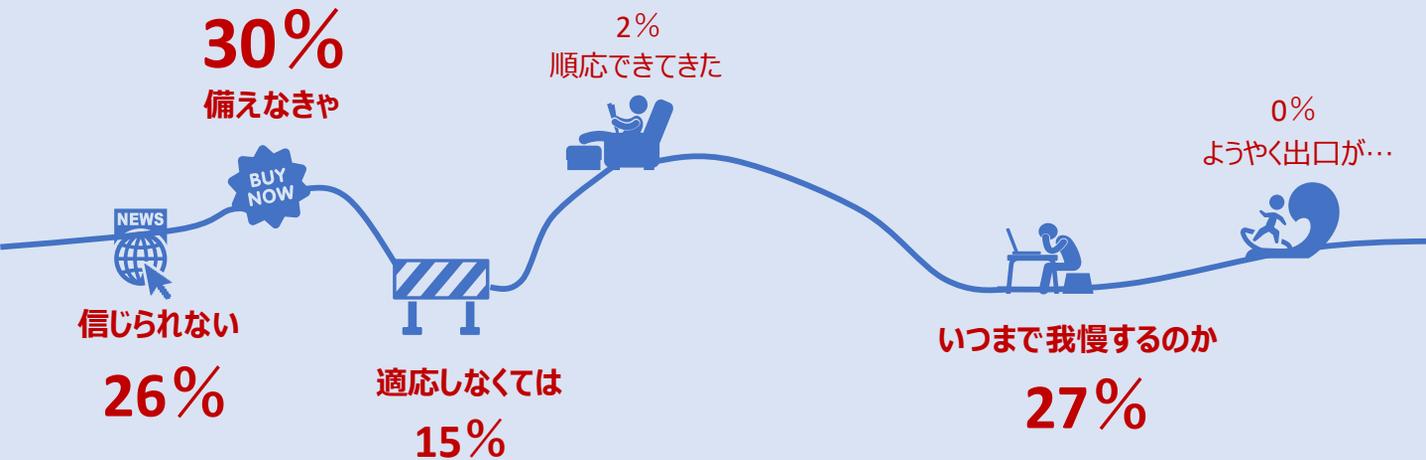
興味深いことに、**人々がバラバラなステージにいる**ことが分かったのです。(下図)

一斉休校や、花見による気の緩み、そして最近の急激な感染拡大などで、ジャーニーの入り口に立った人、途中まで行って振り出しに戻った人、自粛を続け我慢のステージに留まっている人、などが混在していることが推察されます。

あるいは、政府、各自治体、医師会などから発信されるメッセージの切迫感の違いも影響しているかもしれません。

緊急事態宣言が出されて、これからは多くの人々が足並みを揃え、出口のステージに向かうことを祈りつつ、コミュニティメンバーに問いかけ続けます。次号をお楽しみに！

COVID-19 エモーショナル ジャーニー 日本 4月3～6日



親戚が東京にいたので不安に感じるものの、こちらは感染者が少ないので**まだ少し他人事**である。最初はテレビやTwitterを興味深く見ていたが、最近**は暗い気持ちにあるので見ない**

政府の対応の**まずさ**についての報道など、TVをつけても**おおよそ何一つ前向きな内容もないのでしんどくなる**

<調査概要>

対象者： シンケートコミュニティに参加する20代-60代男女、1087名

実施日： 4/3(金)～4/6(月)

友人や知人とメールして励ましあったり、家族で美味しいものを作って食べたり、公園の花を見たり、が**日々の慰めや楽しみを探しています**。

春なので新しく何か語学でも始めようかなど、**前向きになるとテンションも上がります**

主人の勤務先も**ボーナスや給料がカット**になるなど、生活をする上での**経済的不安、自分が保菌者かも知れないという、言いようのない不安**がある

ぜひこの機会にイプソスUUのデジタル定性サービスをお気軽にお試しください！



詳細につきましては、担当までお問合せ下さい

イプソス株式会社 | <https://www.ipsos.com/ja-jp>

担当：野口 junko.noguchi@ipsos.com | 松村 yumi.matsumura@ipsos.com